

生命環境学部のキャンパスは中国山地の山間の庄原市郊外にあります。人口減が進んでいます。小さくとも街中に学生が見られるのは活気のある街であり、学生の存在は街づくりには欠かせないものです。特に、地域活性化の担い手としての市民の期待値は高く、一方、大学としては人材育成の場としての活用を考えています。しかし、大学、市民、学生の有する多様なニーズと相互のマッチングは決してスムーズではありません。そこで、現在、庄原市との協働プロジェクトとして学生が街中へでやすい仕組みづくりを検討しています。これまで学生アンケートの実施等による実態調査、学生との連携を主体として街づくりを行っている先進地の視察を行っています。また、このプロジェクトの支援により試験的に一年生科目「フィールド科学」の講義で、庄原探訪と題して学生が街中へ出て名所などをグループごとに訪問し、その内容をプレゼンするというアクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施しました。学生達には自分たちの住む街なかの一面を知るきっかけとなり有意義だったとの意見が多くありました。写真は、その授業風景です。

